

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

子どもの言葉の変化に注目／二本松市立小浜幼稚園

子どもたちの何気ない言葉。子ども同士の自然なやりとり。その言葉に注目することで、子どもの豊かな育ちを捉えることができます。

今回は、オタマジャクシとの関わりを重ねる子どもたちのやりとりに注目しています。表れている言葉の変化から、「科学する心」が育まれていることや、「科学する心」が幼児期に重要な心情・意欲・態度の成長に結び付いていることが分かります。



○ オタマジャクシに関わる子どもの言葉／4歳児

✦ 場面1 オタマジャクシに気付いて…触ってみたい

飼育ケースから大き目の容器に移し替え、4歳児組前の水飲み場の所に置く。

Sちゃん：「触ってみたい」

恐る恐る水の中に手を入れてオタマジャクシを触ろうとする。

Mちゃん：「逃げちゃう！」

Yちゃん：「泳ぐの速くて捕まえられない！」

夢中になって素手で捕まえよう、触ってみようとする。



✦ 場面2 オタマジャクシの扱い方が乱暴な子どもたちの様子をじっと見て…かわいそう

Yちゃん：「オタマジャクシ、いやいや、痛いよって言ってるよ」と、困った顔で言うが周りの友達誰も聞いてくれない。「いやいや」「痛いよ・・・」

Sちゃん：「死んじゃうよ！」というが、耳をかさないで遊び続けている子どもがいる。「水の中でしか生きられないんだよ！大きくなったら手と足が出てカエルになるのに死んじゃうよ！」

Mちゃん：「やっぱりかわいそうだから触るのやめる」

Kちゃん：「カエル見てみたい。ほんとに手と足生えてくるの？」と、遊びをやめる子どもがいる。

Rちゃん：「やだ、もっと遊びたい！！」と、続ける子どもがいる。



✦ 場面3 オタマジャクシが弱っていることに気付く…動かない！生きています？死んでいる？

Mちゃん：「先生！大変！オタマジャクシがみんなおかしいよ」

Sちゃん：「みんな死んじゃったんだよ！動かないもん！」

Sちゃん：「めろん組さん（5歳児）のオタマジャクシと何が違うのかな？めろん組さんに教えてもらおうよ！」

Mちゃん：「ご飯食べすぎてお腹パンクして死んだんじゃない？」

Rちゃんは、水が揺れてオタマジャクシも揺れているのを見て、「まだ、生きてるよ！」と言う。

Mちゃん：「違うよ、死んでるよ」

Kちゃんは、以前ザリガニが死んだ時「寝ている」と言っていたが、動かないオタマジャクシをじっと見て、「寝てないよ。だってグーグーって聞こえないよ」と言う。



✦ 場面4 オタマジャクシとの関わり方を変えようとする言葉

Rちゃんがオタマジャクシを持って来て、前回と同じ容器に入れる。広い容器に移され、のびのびと泳ぐオタマジャクシを見て、「わー！気持ち良さそう！」と言う。

Mちゃん：「元気に泳いでる！」

Rちゃん：「ザリガニの隣がいい」

Rちゃん以外の幼児：「えー！！だめだよ！死んじゃうもん！」

Mちゃん：「だってこの前、死んじゃった」

Sちゃん：「オタマジャクシは水のない所に置くと死んじゃうのにさ、みんな下（床）に置くんだもん。」

Yちゃん：「ユラユラさせるとびっくりしちゃうよ」

Mちゃん：「ばい菌の手で触ったから病気になるって死んじゃったんだよ」

Kちゃん：「じゃあさ、触らないで見ただけにしたらいんじゃない？」

Yちゃん：「やさしく、やさしくだよね」

✦ 考察

- この事例のMちゃん、Yちゃんの言葉に注目すると、生き物と繰り返し関わることで育まれる様々な育ちが見えてきた。
- どの場面からも、オタマジャクシの様子をよく観ていることが分かった。
- 出合った当初は、自分が「触りたい」という思いが先行する見方で、気付いたことを言葉にしています。次第に、オタマジャクシの様子をよく観て言葉にしている。
- オタマジャクシが、どうして元気がなくなり、動かなくなり、死んでしまったのか、よく観て考えてきたことで、以前のことを振り返ったり、オタマジャクシにどのように関わったら良いか考えたりするようになった。
- 子どもたちが自らオタマジャクシという興味の対象の生き物に積極的に関わり、触れたり、どういう生き物なのか知ろうとしたりすることは、保育者の予想していた姿であった。子ども同士のやりとりに注目する記録により、どのような関わり方をしたらよいか行動を振り返り、関わり方を変えようとする姿を捉えることができた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」